

思い通りいかないときは…



息子が小学生の時…先生から、イラストで描かれた素敵なメッセージを頂きました。メッセージの中で、一番心に残った言葉を紹介します。

① 『思い通りいかないときは、感謝がたりてないだよ』

年度初めや終わりは、何かと忙しくてバタバタしがちです。

ましてや、入園や新たな環境で働くことなど、節目にあたる場合は、自分自身の心にも余裕がなくなることもあります。今まで、うまくいっていたものが、思い通りにいかなくなることもあるでしょう。

しかし、そんな時こそ「感謝の気持を持つ」という事は大切になってきます。

子どもがお母さんと離れるのが嫌で泣いていると、「何で泣くの?」「会社に復帰できなくなったらどうしよう…」etc と、いろいろな思いが頭を巡ります。

しかし、生まれて間もない我が子が社会という門をたたいた事(=成長)に感謝することで、見えてくる世界が変わってくるかもしれません。

つい最近まで、お腹の中にいた子です。遠く離れたとしても親の思いは通じるものです。

思い通りに行かなかった時こそ、一呼吸おいて『ありがとう』と言ってみませんか？

② 『親の言うことを聞かぬ子も 親の真似だけは必ずする』

これは、出勤途中にある掲示板に書かれていた言葉です。

子育てで忙しいと、つつい子どもに「早く〇〇して」「それはダメだよ」と言葉で動かそうとしてしまいます。しかし、子どもは大人のことをよく観ています。

そして、大好きな大人の真似をします。大人の動きと言葉が一致しないと、子どもの習慣として身に付きません。そう思うと、子どもにやって欲しいと思う前に、大人が見本になることを考えていきましょう。そうは言っても思うようにいかないのが子育てです。

見本になれない時には、素直にそれを認め理由を伝えてあげましょう。

「いいから早くして」と曖昧にすると、子どもが曖昧にする習慣が身についていきます。モンテッソーリ教育では「提示」という形で、まず子どもにやり方を見せていきます。

子どもは出来ないのではなくやり方がわからないだけです。先日、職員が子ども達の前で

靴下を脱ぎ、靴下を履く姿をゆっくり見せていました。子どもは、その行動に釘付け

です。帰ってから一緒に手を洗ったり、洗濯物を一緒にたたんだり…そういう動きを大人と一緒にすることを喜びます。子どもと一緒に「出来た」を増やしていくことで、子どもの出来ることも増え、習慣になっていくと思います。

(橋本)

